

現代
俳句

夏石番矢

著

キーワード

辞典

現代
俳句

キーワード

辞典

夏石番矢

立風書房

著

夏石番矢 (なついし・ばんや)

1955年、兵庫県に生まれる。東京大学大学院
比較文学比較文化博士課程修了。現在、明治
大学法学部助教授。

〔著書〕句集『猥常記』『メトロポリティック』
『真空律』『神々のフーガ』(近刊)『人体オペ
ラ』(近刊)。評論集『俳句のポエティック』

現代俳句キーワード辞典

一九九〇年四月十日発行

著者 夏石番矢

発行者 鎌倉 豊

発行所 株式会社立風書房

〒141 東京都品川区東五反田三―六―一八

電話 〇三(四四七)一一九一(営業)

〇三(四四二)八二三一(出版部)

振替 東京五―七四四九三

印刷所 信毎書籍印刷株式会社

乱丁・落丁本は、直接小社通信販売部へお送りください。
小社送料負担でおとりかえいたします。

© Banya Natsushi Printed in Japan 1990

無断複製(コピー)を禁ず。

●はじめに——季語からキーワードへ

『万葉集』の出現以来、日本の詩歌を大きく突き動かしてきたのは、アンソロジーではなかつたろうか。もちろん、個々人の作品集、とりわけ画期的な私家集の重要性は決して軽視できないことを承知のうえでこう言っている。個人個人の詩作品の突出性や独自性、さらにはその裏面を支える共通性をしっかりと把握するには、時代の幅を限定してさまざまな人々の作品群を切り取ってできる断面図が必要とされるのである。その断面図に、作品群を編集する者の世界観が映し出されるならば、さらに有意義な詞華集が作りあげられるだろう。短歌の『古今和歌集』や『新古今和歌集』、俳諧の芭蕉七部集と呼ばれるものなどがすぐに挙げられる。

しかしながら、近代以降現代にいたるまでの詩歌、とくに俳句には、残念にもすぐれたアンソロジーが欠けている。たしかに疑似アンソロジーとしてのさまざまな歳時記、結社や世代別のアンソロジーは存在する。存在すると言っても、そこから短詩型に託された日本語の深い知恵は不思議にも見えてこないのが実情である。

どこに原因が潜むのだろうか。

まずは、アンソロジーを編む基準の問題。近・現代俳句において、すでに数多くの無季の秀句

が生み出されているにもかかわらず、季語を中軸とする編集方針が基本的に疑われていないことが、最大のネックになっている。近年いくつかの歳時記に、俳枕（地名）、雑の部、季語以外の詩語を項目として立てる風潮が見られるようになった。これも前進と言えば前進と言えるかもしれない。けれども、それらの編集の思想は、木に竹を接ぐ不整合性をやはり露呈しているにとどまる。本当は、季語も俳枕も詩語も、一つの土俵の上に乗って再編成されるときがきているのである。

歳時記は、元来は暦もしくは年代記を意味することば。日本の暦は、古代の暦を別にするといくつかの中国の暦を借用してきたにすぎず、明治五年（一八七二年）以降は、ヨーロッパの暦を採用している。時間意識がまだ借りものを脱しきれない日本において、明確な世界観やコスモロジーを読み取らせることのできる歳時記は一度も成立しなかったと言っても過言ではない。

短詩型に託されるのが、日記風の季節感だけとしたら、たいへんおそまつな話だ。季節感を突きぬけた世界観や宇宙観、あるいは人間観が問われない詩などは、滅亡すればよい。日本語によつて最も端的にコスモロジーや人間観が表現できるのが俳句であれば、有季・無季の次元を超越した分類基準が当然必要になってくる。そこで、この本ではキーワードという詩的中核語を項目の柱として立ててみた。

あるいは、コンピュータ用語としておもに使用されるキーワードという外来語に異和感を表明する読者もいるかもしれない。とはいえ、キーワード（keyword）のキー（key）が鍵を意味し、ワード（word）がいとはを意味するのを見ると、決して一時的な思いつきではないことが

了解されよう。小さいながらも大きな働きをする鍵。こちらの既知の世界からあちらの未知の世界へと導く鍵。大切なものをしっかりと密閉して守る鍵。こういった鍵の役割からしても、キーワードということばが、短詩型の中核語を指すにふさわしいと言えるだろう。

たとえキーワードに、たまたま季語が入っていたとしても、おのずとその意義は異なる。問われているのは、世界観であるからだ。

この本は、辞典と銘打ってあるが、同時にアンソロジーでもある。詩的エンサイクロペディアと呼んでもいい。二四五のキーワード別に秀句を編集し、一つ一つのキーワードごとに、そのキーワードの歴史や意味あるいは詩的方向性をとらえながら、掲出した俳句作品を読解してゆくスタイルを選んだ。

また、従来の歳時記等のアンソロジーにありがちな、作品資料をどう集めたのかが不明だという短所を補うために、昭和に出版されたほとんどの個人句集を基礎資料にした（本書執筆中に昭和が終ったので区切りに利用した）。見ることできた三〇〇〇冊ぐらいの句集から、秀句をピックアップすることから、本書執筆の作業は始まった。結果的には、四一五冊の句集や著作物から詞華集を編んだことになっているが、この四一五冊以外の句集をも読んだうえでの取捨選択がなされたと考えてもらっていい。もちろん入手できない句集、見落とした秀句もあるかもしれない。しかしながら、論評に価する昭和俳句の大半は押さえてあると思っている。

さらに付言すれば、キーワードの立てかたは、あらかじめ決定していたのではなく、集まった秀句の側から自然に見えてきたことを述べておこう。そして、収集した秀句の約七割が、最終的

にはこの本に登場している。

ともあれ、およそ二年かけて本書を書きあげた。このささやかな一歩が、現代俳句の質の向上と活性化、ひいては一人一人の日本人のコスモロジー確立に少しでも役立つことを切に願う。

一九八九年八月二十六日

夏石 番矢

目

次

あ

あい【愛】……………15

あかんぼう【赤ん坊】……………16

あけぼの【曙】……………17

あさ【朝】……………18

あし【足】……………19

あす【明日】……………20

あたま【頭】……………21

あな【穴・孔】……………22

あに【兄】……………24

アヌス〈anus〉……………25

あね【姉】……………26

あめ【雨】……………27

あり【蟻】……………28

い

いえ【家】……………30

イエス〈Jesus〉……………31

いかり【怒(り)】……………33

いし【石】……………33

いしよ【遺書】……………35

いじん【異人】……………36

いす【椅子】……………37

いちご【一語】……………38

いなびかり【稲光(り)】……………39

いぬ【犬】……………40

いのち【命】……………42

いもうと【妹】……………43

いろ【色】……………44

う

うお【魚】……………45

うしろ……………46

うた【歌・唄】……………47

うつ【鬱・鬱】……………48

うま【馬】……………49

うみ【海】……………50

うみ【湖】……………52

え

え【絵・画】……………53

えいが【映画】……………54

えき【駅】……………55

お

お【尾】……………56

おう【王】……………57

おき【沖】……………58

おきな【翁・叟】……………59

おくじょう【屋上】……………60

おと【音】……………61

おとうと【弟】……………62

おとこ【男】……………63

おに【鬼】……………64

おながく【音楽】……………66

おんな【女】……………67

か

か【香】……………69

かいきよう【海峡】……………70

かお【顔・白】……………71

かがみ【鏡】……………72

かげ【影】	73	きよじん【巨人】	95	こ【子・児】	115
かこう【河口】	74	きり【霧】	96	こい【恋】	116
かず【数】	75	きりかぶ【切株】	97	こいびと【恋人】	117
かぜ【風】	77	キリスト【基督】	98	こえ【声】	118
かた【肩】	78	〈Christo〉		こおり【氷】	120
かたしろ【形代】	79	ぎんが【銀河】	99	コカ・コーラ【Coca Cola】	120
かたち	80			こくう【虚空】	121
かば【河馬】	80	く		こくじん【黒人】	122
かび【黴】	81	くうきよ【空虚】	100	こころ【心】	124
かみ【神】	82	くじやく【孔雀】	101	ことば【言葉】	126
かみ【髪】	85	くそ【糞】	102	こぶし【拳】	127
からす【鴉】	86	くち・くちびる【口・唇】	103		
ガラス【硝子】	87	くに【国】	105	さい【犀】	127
からだ【体】	88	くも【雲】	107	さくら【桜】	129
かわ【川・河】	89	くも【蜘蛛】	109	さけ【酒】	131
		クリスマス【Christmas】	110	さしきわらし【座敷童子】	131
き				さばく【沙漠・沙漠】	132
き【木・樹】	90	け		さんき【三鬼】	133
きず【傷・創】	92	けむり【煙】	112		
きた【北】	93	けもの【毛物】	113		
きみ【君】	94	げんご【言語】	114		

し

し【死】……………134

じかん【時間】……………136

ししゃ【死者】……………137

した【舌】……………138

しま【島】……………139

しゅ【主】……………140

じゅうしん【重信】……………140

しょうじょ【少女】……………142

しょうねん【少年】……………143

しんぶんし【新聞紙】……………146

す

すぎ【杉】……………147

すず【鈴】……………147

すな【砂・沙】……………148

せ

せいしよ【聖書】……………150

せんそう【戦争】……………151

せんちよう【船長】……………152

そ

そうぞう【想像】……………154

そら【空】……………154

た

たいよう【太陽】……………157

だえん【橢円・楕円】……………158

たき【滝】……………159

たび【旅】……………160

たびびと【旅人】……………162

たま【玉・珠・球】……………163

たまご【卵】……………164

たましい【魂】……………165

たんじょうび【誕生日】……………166

ち

ち【血】……………167

ち【地】……………168

ちきゅう【地球】……………169

ちち【父】……………170
ちよう【蝶】……………173
ちり【塵】……………175

つ

つき【月】……………176

つち【土】……………178

つばさ【翼】……………179

つま【妻】……………179

て

て【手】……………181

てのひら……………183

テレビ<television>……………184

てん【天】……………185

てんし【天使】……………186

てんたい【天体】……………187

てんのう【天皇】……………187

と

と【戸】……………189

とう【塔】	190	な【名】	196
とうきよう【東京】	191	なみ【波・浪・漣】	198
とき【時・刻】	192	なみだ【涙・泪】	199
とも【友】	193	なれ・なんじ【汝・爾】	200
どうよう・どうようび			
【土曜・土曜日】	194		
とり【鳥・鶏・雞】	195		

にちりん【日輪】	208	ねこ【猫】	212
にっぽん・にほん【日本】	209	の	
にっぽんかくめい		の【野】	214
【(日本革命)】	210	のど【喉・咽喉】	215
にほんかい【日本海】	210		
にんぎよう【人形】	212		

は		はら【薔薇】	224
はか【墓】	216	はり【針】	226
はか【馬鹿】	217		
はし【橋】	218		
はしら【柱】	219		
はな【花】	220		
はは【母】	222		

ほ

ほう・ぼうし【帽・帽子】	243
ほし【星】	243
ほたる【蛭】	245
ほと【陰】	246
ほね【骨】	247

ま

まくら【枕】	248
まち【町・街】	249
まつり【祭】	250
まど【窓】	252
まひる【真昼】	254
まら【魔羅】	255
マリア・マリヤ〈Maria〉	255
まんじ【卍】	257
まんだら【曼陀羅・曼荼羅】	257

み

み【身】	258
------	-----

みかづき【三日月】	259
-----------	-----

みけん【眉間】	260
---------	-----

みさき【岬】	261
--------	-----

ミシマ〈Mishima〉	262
--------------	-----

(三島由起夫)	262
---------	-----

みず【水】	263
-------	-----

みち【道・径】	265
---------	-----

みつびしぎんこうあそび	267
-------------	-----

【三菱銀行あそび】	267
-----------	-----

みなみ・みんなみ【南】	268
-------------	-----

みみ【耳】	269
-------	-----

みやこ【都】	271
--------	-----

みらい【未来】	272
---------	-----

む

むし【虫】	273
-------	-----

むち【鞭】	274
-------	-----

むね【胸】	275
-------	-----

むらさき【紫】	276
---------	-----

め

め【目・眼・瞳】	277
----------	-----

も

もの【物・鬼】	279
---------	-----

もり【森・杜】	280
---------	-----

もん【門】	282
-------	-----

や

やくそく【約束】	283
----------	-----

やま【山】	284
-------	-----

やみ【闇】	286
-------	-----

ゆ

ゆうれい【幽霊】	288
----------	-----

ゆき【雪】	289
-------	-----

ゆび【指】	291
-------	-----

ゆめ【夢】	292
-------	-----

よ

わ

よ【世・代】

..... 294

よ・よる【夜】

..... 296

よげん【予言】

..... 297

よみ【黄泉】

..... 298

り

りんご【林檎】

..... 299

る

るす【留守】

..... 301

るり【瑠璃】

..... 302

れ

レモン【檸檬】〈lemon〉

..... 303

ろ

ろうそく【蠟燭】

..... 304

ロシア・ロシア〈Russia〉

..... 305

わたし・わたくし【私】 306

われ【我・吾】 307

われら【我等】 309

引用句集一覧 311

現代俳句キーワード辞典

装帧
高麗隆彦